

解 答

一

問一 剣道の練習中、先生の足袋の先を踏んづけて、本人が隠している足の指がないという身体的な障害を興味本位で暴こうとするところ。

問二 勇気もないくせに、深い考えもなく、先生の足の指がないことを暴き、陰險な好奇心を満足させたい気持ち。

問三 人のいい先生をだまし、その秘密を暴いたことに良心の痛みを感じ、後悔する気持ち。

問四 先生に対して罪悪感を覚えていた自分が罰を受けたように感じ、少し気が晴れたから。

問五 身体的な障害を悪戯の対象にして先生を侮蔑した者をこらしめようとしたのに、先生から卑怯だと叱られて悲しく、悔しかった。徹底的に叩いた理由を言えば、先生を傷つけることになるので言えない。自分の気持ちをわかってもらえないもどかしさとやりきれなさでいっぱいになっている。

問六 ① 舌 ② 口調 ③ 視線 ④ 空

二

問一 戦地で死んだ息子を思うと、今でも涙が流れてどうすることもできないとあった点。

問二 幼稚園に通っていた頃のことだ。近所の公園で小さい子供たちを相手に一日中遊んでいるおじいさんがいた。後日、昔、子供を交通事故でなくしたという話を聞いた。悲しみをおしかくし、僕たちを守ってくれていたのだろう。精神的に強い人だったにちがいない。